

# 静沢の森遊歩道

遊歩道周遊 所要時間約 1.5 時間  
(船客待合所から遊歩道入り口まで約 20 分含む)

遊歩道略図



## 戦跡 A

所要時間約 15 分

基礎が残る様子からかなり大きな兵舎だったことが想像できる。村道静沢線脇の構造物には 3 口のかまどが設置され、近くにはポンプが錆びた状態で残っている。陶器のかけらや空瓶に当時を感じることができる。

コンクリートの基礎の様子から、風呂場の浴槽と思われる場所には天水がたまり、天然記念物のオカヤドカリの水場になっている。日当たりのよい石の上には、オガサワラトカゲが集まっている。

静沢線脇のかまどに比べ、こちらのかまどは工夫されており、市販品のレンガの他に母島の特産品のローズ石を使用し、丁寧に作られている。水道の支柱や蛇口の跡も残る。

頭上注意  
樹木あり  
立入禁止

この場所は夕日の絶景ポイントで「サンセットシアター」と呼ばれている。ベンチの正面左の島は眼鏡岩。右の島は四本岩。



## 戦跡 C

所要時間約 15 分

ピークの 101m 地点には、機関銃らしき跡が残る。ここからの景観は見事。沖合には母島の属島、姪島、妹島、二子島、平嶋、姉島、向島が一望できる。足元に咲くピンクやオレンジなど鮮やかな色の小花を付ける植物は帰化種でランタナ。島名シチヘンゲ。

## 戦跡 B

所要時間約 20 分

木々の茂みの中で、メグリが採食している様子を観察することができる。メグリは、小さな昆虫や花の蜜、果物などをエサとしている。

コンクリート製の構造物の材料の砂や砂利は、母島内で採取されたもの。サンゴや貝殻が混ざっている。正門下の階段を観察してみよう。

### 凡例

	施設跡 (破線)
	砲台
	現存する施設
	基礎跡 (実線)
	遊歩道
	階段

※施設は老朽化が進んでいるため崩壊等の危険があります。建造物などに立ち入らないようにする他、足元にも十分ご注意ください。

# 静沢の森遊歩道 戦跡案内

当地一帯には、旧海軍の父島方面特別根拠地隊母島警備隊の施設として「母島海面砲台」が置かれ、安式四十口径十五糎(センチ)砲4門が設置されていた。また、母島海面砲台から北側の「101高地」と呼ばれた場所には「静沢101高地防空砲台」が置かれ、高角砲が設置されていた。この周辺と村道の南側一帯には関連施設の遺構が残されている。

※記録がほとんど残っていないため建造物等の用途は推定。

名称: 海軍 海面砲台及び静沢101高地防空砲台

目的: 母島海面砲台は沖港防衛(主に海上艦艇の攻撃)、防空砲台は対空防御

経緯: 昭和16年(1941) 6月 対米関係の悪化に伴い、沖港防衛のため海面砲台の建設開始  
十五糎砲4門設置。(後の昭和19~20年頃2門は地下洞窟内に移設、残り2門も南崎砲台に移設)

10月 海軍第7根拠地隊新設(父島奥村)

17年(1942) 6月 第7根拠地隊を父島方面特別根拠地隊と改称

19年(1944) 9月 父島方面特別根拠地隊母島警備隊編成。それまでは母島に一部の兵を派遣し、9月以降、静沢101高地防空砲台に一二糎高角砲設置

母島海面砲台(静沢80高地海軍施設) **戦跡B**

門柱、砲側弾薬庫2ヶ所、弾薬庫、安式四十口径十五糎砲4門(砲座のみ一部残存)、九六式二十五糎(ミリ)単装機銃・同連装機銃(各架台の残骸のみ残存)

村道南側 **戦跡A**

母島海面砲台(兵舎、貯水槽等)、沖港防備衛所(衛所、水槽等)

この海軍施設内には、弾薬庫、指揮所が建設され、現在の村道静沢線をはさんだ南側には、潜水艦探知のための沖港防備衛所が設営され、兵舎、貯水槽の跡が残る。安式四十口径十五糎砲・4門のうち2門は沖港防備衛所・西側斜面に移設された(鮫ヶ崎海面砲台)。また2門は、南崎(小富士)の地下壕に移設された(南崎海面砲台)。

**門柱** 昭和19年(1944)9月に編成された母島警備隊の関連施設の正門門柱であると考えられている。

【ルートマップ戦跡B①】

**砲側弾薬庫及び砲座** 砲座があったと考えられる付近に2ヶ所設置されており、安式四十口径十五糎砲に装填する砲弾や薬莖(真鍮製の小筒で装薬を詰める容器)が保管されていたと考えられている。

【ルートマップ戦跡B②】

**弾薬庫** 砲台の脇に設置され、安式四十口径十五糎砲の砲弾に炸薬(火薬)を詰めたり、薬莖に装薬(火薬)を詰めたりした場所と考えられており、砲台と弾薬庫の間には指揮所が置かれていたと推定される。付近には九六式二十五糎連装機銃(架台の残骸のみ残存)が確認できる。

【ルートマップ戦跡B③】

安式四十口径十五糎砲…口径152.4mm、全長6.311m、重量55.882Kg、方向射界360度、初速670.5m/s、日清戦争時代に英国アームストロング社から輸入した砲で、日露戦争で日本海海戦における連合艦隊の旗艦「三笠」級の副砲として使用された旧式砲。

静沢101高地防空砲台 **戦跡C**

十年式一二糎高角砲3門(何門設置かは不明)

【ルートマップ戦跡C④】

九六式二十五糎単装機銃・同連装機銃(各架台の残骸のみ残存)等

十年式一二糎高角砲…口径120mm、砲身5.280m、重量8,500Kg、方向射界360度、初速900m/s、最大射程15,000m、大正10年(1921)に制式化(大砲として採用)された。

九六式二十五糎機銃…単装・連装共に口径25mm、初速900m/s、射撃速度150発/分、昭和11年(皇紀2596年)に制式化(機銃として採用)された。